

シラバス

(神戸大学・東京六甲クラブ・ミニ MBA 塾)

開講期間	2014年5月～2015年5月(月1回・13回・3時間)
担当講師	大住敏之(但し、「生産管理」を担当する講師は別途指名)
受講対象	神戸大学の理工系学部卒業生 (希望があれば文系学部&他大学の卒業生も)
講義 の 概 要 & 特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・経営の実践体系理論(MBAプログラムのコア科目に相当)を論じる。 ・その背景にある考え方： <ul style="list-style-type: none"> i) 現代の我々は「組織」という世界に住んでいる。あらゆる「組織」の運営には経済学・経営学的思考を必要としている。 ii) 経済学・経営学的思考は、主に営利企業を対象としているが、実はあらゆる組織(役所・学校・病院・軍隊・美術館・自治会・NPO等)のオペレーションに有効。 iii) 実社会に出て10年もすると、エンジニアであっても、マネジャー的業務に直面、MBAプログラムの知見が必要になる。(特に会計、ファイナンス、マーケティング、組織行動論) iv) アメリカの有力ビジネス・スクールでは、学部時代に理工系を専攻した者が半数以上を占めている。卒業後、Engineering + MBAというバックグラウンドを生かし、経営の第一線で実績を挙げている。(日本企業は未だ生産現場一流、本社三流から脱却できていない) v) 日本以外の先進諸国・新興諸国では幹部候補に対し、世界標準の教科書を使い実に効果的に経済・経営教育を行っている。偏狭な攘夷思想に捉われず、正統かつ国際標準の理論体系をベースに講義を展開。 vi) 経営の実践体系理論は、リベラル・アーツや純粋理論ではない。また、一般的な経営書によくある精神論・根性論・経験論もしくは理論抜きハウツー・モノとは一線を画すものである。現実の経営を理論化・体系化しているので汎用性と応用性に優れる。 vii) 経済学・経営学の全領域を扱う講義(経営学総論 or MOT)では、専門に特化した教員が入れ替わり立ち替わり登壇し、前後の脈絡に関係無く自分の専門分野を講じるのが通例だが、(生産管理を除き)

	<p>一人で担当するメリットを生かして俯瞰的・横断的視点に立ちながら相互関連性、相互位置関係、全体像を強調する。</p> <p>viii) 経済学・会計・ファイナンス理論を主軸に、ビジネスの実践現場での有効性と耐久性に照らしながら、経営学の各構成分野を論じるところに特徴がある。vii)とviii)が六甲クラブ・ミニ MBA 塾のブルー・オーシャンと言える。</p>
講義の モットー	<p>・“良い理論ほど実践的なものはない” (There is nothing so useful as a good theory. ; クルト・レビン)</p> <p>・良い理論は、自明でなく意外性があり、学ぶことが楽しい。常識と直感に基づく判断の過ちを正してくれる効能を有する。</p>
受講資格・ 予備知識	<p>・特になし、政治・経済・経営・行政に対する知的好奇心のみ。</p>
講義 の 到達目標	<p>・経済学・経営学のベースになっている基本的考え方、実践に有用な代表的理論・概念を体系的に理解。現実問題への適用事例を体得。</p> <p>・広く・体系的に MBA プログラムのエッセンスを学ぶことにより、量的・質的に最強の学習方法である「自学自習能力」を身につける。</p> <p>・現実の問題解決を論理思考で時間的・労力的に効率よく正しく行う能力。</p> <p>・現実の諸課題が、大学のカリキュラム別に分類されて存在しているわけではないし、組織図の業務職掌を尊重して向かってくるわけでもない。マネジメントの全体観・鳥瞰図（海図；Chart）を持つことで、正しい方向に自信を持って第一歩を踏み出すことが可能になる</p> <p>・Chart で、組織を預かる人間にとって致命傷になる盲点（知識・経験・情報のない課題、即ち予知せぬ岩礁）を極小化するのが狙い。</p> <p>・情報洪水の中で流されないための軸・プリンシプル・インテグリティを身につけるには正統理論（Good Theory）に立脚した、しっかりとした思考訓練（Discipline of good thinking）が不可欠。</p>
教材	<p>・毎回 40~60 ページの独自テキストを事前に配布（MBA コア科目を網羅し理論的整合性の取れた市販の教科書は、残念ながら存在しない）</p> <p>・配布テキストの事前熟読（リーディング・アサイメントーⅠ）</p> <p>・別紙記載の 5 冊の書籍を読むこと（リーディング・アサイメントーⅡ）</p>

<p>講義方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストをプロジェクターでスクリーンに映しながら、少人数ゼミナール形式で説明（情報量が少なく真意が伝わらないので、パワーポイントは使用せず） ・質問・意見は随時 OK, 自由闊達な双方向授業. ・毎回 30 分程度を費やして、日常業務上の実際の問題を取り上げその解決方法を議論. ・カレント・イベント・レポート；講義で取り上げた課題と関連する記事を新聞・雑誌から選びその要約と自身の見解をまとめ 2 週間以内に提出。（指名により適宜クラスでプレゼンテーションも） ・クローズド・グループウェア活用により、クラスメンバーをネットでコネクトし、クラス外でも常時、質問・意見交換を行う. ・講義時間は、六甲クラブのご厚意に甘えて、午後 7 時から 10 時まで、夕食と Drink 付き. ・会社で中核業務を担っておられる皆さんの勤務状況に鑑み、希望があれば補講を実施.
<p>講義日程 & 内容</p>	<p>1. インTRODakション：-----5月22日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自己紹介 ② 講義方針・プロトコール ③ ビジネス上の持論 ④ MBA プログラム <p>2. 問題解決手法：-----6月26日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 人口動態論（オーナス問題・タイムマシン経営） ② 論理思考による問題解決手法 ③ 世界のマグニチュード理解 <p>3. 経済学(I)-----7月24日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 経済学の基本コンセプト ② 経済モデル ③ 経済システム ④ 経済体制の歴史的展望 <p style="text-align: right;">《Continued》</p>

4. 経済学(Ⅱ)----- 8月21日(木)

- ① 産業組織論
- ② 生産コストの理論
- ③ ビジネス経済学
- ④ ゲーム理論

5. 経営学(Ⅰ)----- 9月26日(金)

- ① 経営学とは
- ② 会社組織
- ③ 経営学の系譜

6. 経営学(Ⅱ)-----10月24日(金)

- ① 経営戦略論
- ② 組織行動論 (人的資源管理・リーダーシップ論)

7. 経営学(Ⅲ) : -----11月21日(水)

- ① ブルー・オーシャン戦略
- ③ リスク・マネジメント

8. マーケティング論(Ⅰ) : ----- 12月17日(水)

- ① マーケティングの基本コンセプト
- ② マーケティング戦略・戦術
- ③ サービス・マーケティング

9. マーケティング論(Ⅱ) : ----- 1月21日(水)

- ① デジタル時代のマーケティング
- ② ケース (小企業の商品開発事例)

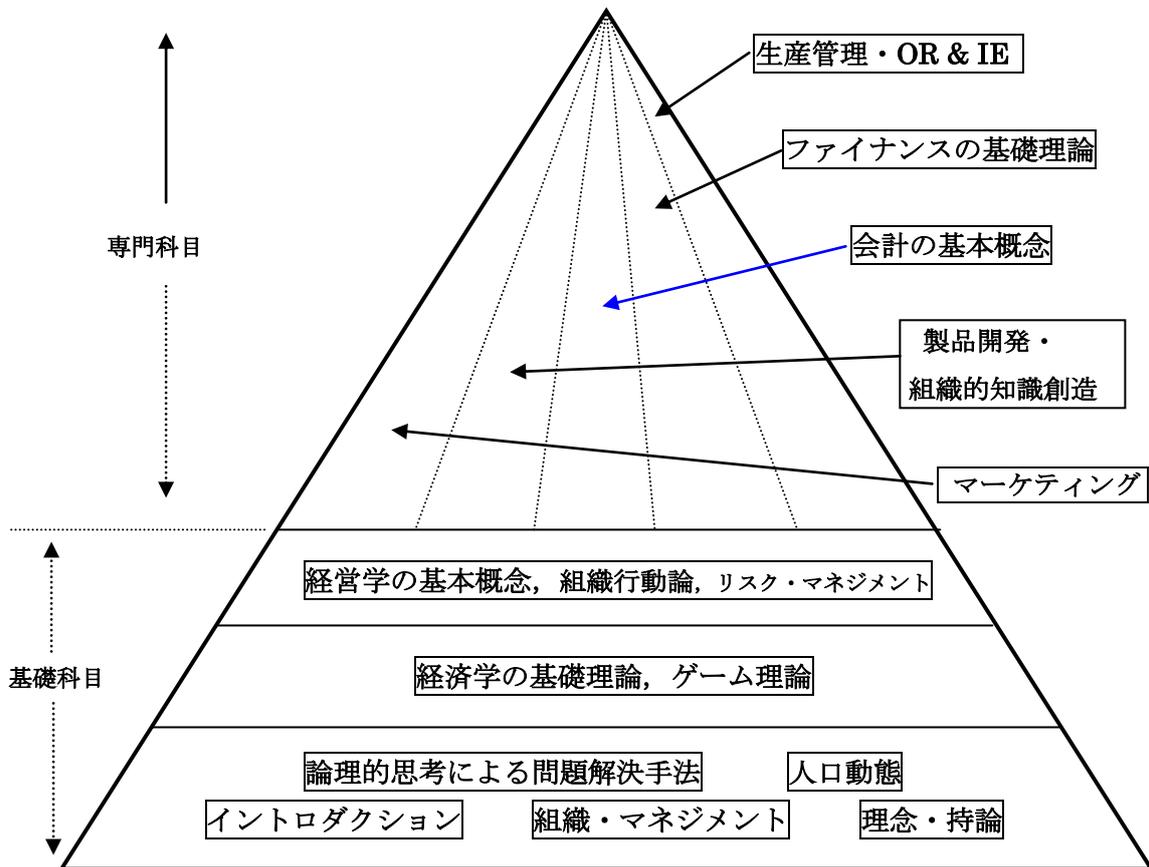
10. 製品開発 & 組織的知識創造 : -----2月19日(木)

- ① 製品開発の本質
- ② 製品開発とイノベーション
- ③ 製品開発プロセス
- ④ 組織的知識創造論

《continued》

	<p>1 1. 会計学 : -----3月19日 (木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 会計の基本コンセプト ② 会計原則・基準 ③ 財務諸表 ④ 財務分析 ⑤ (ケース) 会計構造・プロセスの一体理解 <p>1 2. ファイナンスの基礎理論 : -----4月23日 (木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ファイナンスの基本コンセプト ② DCF メソッド ③ 投資プロジェクト評価方法 ④ 企業価値評価方法 (CAPM, Beta, EVA) ⑤ ファイナンス理論上の留意事項 <p>1 3. 生産管理 & まとめ : -----5月21日 (木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生産管理 ② MBA コア科目のエッセンス ③ むすびにかえて
<p>その 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬・春にフィールド・サーベイを計画 ; ① JFE 千葉製鉄所見学 ② その他首都圏の企業見学 ・ 第1期生・第2期生との懇親会

ミニMBA講座のアーキテクチャー



* 「生産管理・OR/IE」は、日本企業の強い分野で重要な位置を占めているが、私自身、理論では知っていても生産現場での「汗と涙の実体験」がないので、外部から適任者を招く。

* 人に教えるときは“知っていることの25%以上を語るべきではない”との戒めを守るため

* 受講生のどなたかをお願いするのが理想。昨年度は1期生の山中浩紀氏(味の素)が担当。

自己紹介

- ・大住敏之 (Toshiyuki OSUMI, ©TLXXVI), 生れと育ちは兵庫県の日本海側の但馬国, 中学は明石の大蔵中, 高校は篠山鳳鳴高, 大学は神戸大経済学部 (1967年卒, 新野先生の自称一番弟子, サークルは南米研究会でキャプテン).
- ・鉄鋼会社 (川鉄, 現 JFE) に 38 年間勤務, 退職後はビジネスとアカデミック半々.
- ・現在, **ビジネス面**では, 海外を含む数社の社外役員・顧問を務めている. 自分では, 依然としてバリバリの現役ビジネスマンのつもり (収益責任と雇用責任は出来るだけ負わないようにしているが).
- ・**アカデミック面**では, 2003 年より 9 年間, 青山学院理工学部大学院の兼任講師をさせてもらった (副学長に就任された教授の代講が始まり). 2007 年に, JICA プロジェクトによるマレーシア中小企業庁職員研修プログラムでマーケティング戦略を担当 (1日6時間・5日連続の英語による集中講義). 2008 年より, 立命館アジア・太平洋大学 (APU) で, 経営学 101 の講義を担当 (日本語コースと英語コースの両方, 今年で7年目, 教え子は 1,500 人超, 6割が外国人学生,)
- ・4 年前から故郷の養父市の市長の要請で, 若手職員 (事業家, 教職員も含む) を対象としたゼミナール形式の研修をスタート (月 1 回, 12 回). 昨年からは幹部コースも.
- ・川鉄で事務系海外留学生第 1 号 (カリフォルニア大学バークレー, 1973 年 MBA). 専門はファイナンス理論, 会社では財務, 海外事業経営, 海外営業, 経営企画に従事 (米国に 2 度, アジアに 2 度駐在). 若い時から国際ビジネスの第一人者を自認, この分野で会社トップの参謀役. ヘッド・ハンターの誘惑を退け鉄鋼会社でのキャリアを全うしたので, 企業組織のヒエラルキーの全職階でマネジメントを経験. 担当した職能はほぼ MBA コア科目をカバー. (理論をビジネス現場で実践)
- ・学者ではないので, 高度な理論はよう教えられない. 理論の「クリエイター」ではなく, あくまで「ユーザー」. 理論を実務にどう役立てるかについては独創性を自負. バックに海外を含むブレイン・ネットワーク (産・官・学, 会計士・弁護士・コンサル, エンジニアのプロフェッショナル) を持っていて, 何でも教えてもらえるのが唯一の強み. 分からない事は一晩待ってもらえれば答えられる.
- ・ミンツバーグ教授の下記の言葉が心の支え: (“Managers Not MBAs”)
「私が経営教育で最も望ましいと思うのは, 教鞭をとる実務家 (パートタイム) で, 教育 40%, 研究 0%, 教務 10% (実務 50%) だ. この形態は, アカデミックな志向と卓越した教育スキルを持つ実務家が教鞭をとる場合のみ可能」
- ・現時点で私が目指している境地:
“*Half the time I am intellectual, the other half I am a no-nonsense practitioner. I am no-nonsense and practical in academic matters, and intellectual when it comes to practice.*” (N.N.Taleb, “ブラック・スワン” の著者の言葉)
- ・連絡先; e-mail : osumi76@hotmail.co.jp / iPhone : 080-1160-7309

リーディング・アサイメントーⅡ

（ 下記書籍を購入のうえ，期日までに読んでおいてください．講義中に推薦する参考図書は，事後に読んでいただければ結構です． ）

1. 『実力大競争時代の「超」勉強法』
・野口悠紀雄著・幻冬舎刊----- 7月末
2. 『マネジャーの実像』
・H. ミンツバーグ著・日経 BP 社刊----- 9月末
3. 『ブルー・オーシャン戦略—競争のない世界を創造する—』
・W.C. キム&レネ・モボルニュ著・ランダムハウス講談社刊----- 11月末
4. 『失敗の本質—日本軍の組織論的研究—』
・野中郁次郎他著・中公文庫刊----- 1月末
5. 『国家はなぜ衰退するのか』
・ダロン・アセモグル著・早川書房刊----- 3月末

事前提出書類

- ・次ページのフォーマットによる「自己紹介」を，5月20日（火）までに下記メールアドレス宛に提出してください．

osumi76@hotmail.co.jp

